

世界 OMEP 創設七十周年の年に寄せて 第七十回 プラハ大会報告

上垣内伸子

(大学教員)

去る六月二十五日から二十九日までの五日間、チェコ共和国の首都プラハにて、OMEP 世界大会が開催されました。一九四八年に創設された OMEP にとって二〇一八年は特別な年、そしてプラハは記念すべき第一回の会議を開いた特別な場所。七十周年を皆で祝おうと、世界七十三か国の OMEP 加盟国から、たくさんのメンバーがプラハに集まりました。そして一九六八年に正式加盟した日本にとっても、今年は五十周年のお祝いの年です。学期中にもかかわらず五十名を超える会員が参加しました。

OMEP のこれまでの歩み

OMEP (世界幼児教育・保育機構) は、第二次世界大戦終了直後の一九四五年九月に開かれたヨーロッパ戦災孤児救済会議に参集した人々たちによって構想構されました。一方、一九四六年には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」というユネスコ憲章を掲げて、ユネスコ (国際連合教育科学文化機関) が創設されました。このユネスコの教育部門に就学前教育を含めるべきとの思

上垣内伸子 (かみがいち のぶこ)

十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科教授。

OMEP 日本委員会副会長。

いを抱いたイギリスのアレン卿夫人は、スウェーデンのミユルダール夫人らと就学前教育に関する世界組織の結成を検討する会議を開き、就学前教育の国際組織として協働活動が可能なることをユネスコ本部に伝え、一九四八年プラハにて第一回世界大会を開催しました。こうしてOMEPPは発足したのです。幼児教育分野の知恵と実践を国際化することが人類の平和の礎となる、皆で平和の種を幼児の心にまこうというのが、OMEPPが一貫してもち続けている願いです。現在では、七十三か国が加盟し、毎年世界大会が開催され、保育関係者の交流が図られています。

日本では、山下俊郎日本保育学会会長（当時）を委員長に、日本保育学会、国公立の幼稚園と保育所の団体、保育者養成校の団体など国内の代表的な保育関連団体が集めた強力な組織を組んで加盟申請を行い、一九六八

年の第十二回ワシントン大会で正式加盟が承認されました。その後、荘司雅子第三代保育学会会長の時代に、国際交流に積極的に参加する意思をもつ個人会員の参加を可能にする組織改革を行い、団体会員と個人会員による組織に変わりました。現在は、十一団体と二四〇余名の個人会員が活動しています。

第七十回プラハ大会

七十周年記念式典は、第一回大会と同じく、カレル大学のカロリナムという歴史的会堂で行われました。カレル大学は一三四八年創立の東ヨーロッパ最古の大学であり、チェコは、『大教授学』を著し、



▲カレル大学での70周年記念式典

幼児期の教育の重要性を説いたコメニウス生誕の国です。チェコの幼稚園は *Materske Skoly* (母親学校) と称されますが、これはコメニウスの言葉です。中世から続く知の系譜に触れたような気持ちになりました。

今大会テーマは「今日の幼児教育に必要なもの、持続可能な未来にとつての基礎」。歴史の中に今を捉え、持続可能な社会の構築に向けて未来を語りあう場であろうとする開催国の意図が感じられました。五名が登壇した基調講演では、平和を希求して発足して七十年を経た今も、子どもが安心して暮らせる平和な社会が実現していないこと、むしろ、地域によっては紛争や貧困状態の厳しさが増し、不安の中での生活を迫られていること、物質的には豊かであっても十分に愛されているとは限らないこと、何より、子どもらしく十分に遊ぶ権利が保障されていない子どもが多く存在することが語られ、今こそ、幼児教育に

かわる私たちが、やるべきことを行動に移そうと呼びかけられました^{註2}。それは、現在の OMEP の目的の第一に掲げられている、「すべての子どもの質の高い幼児教育・保育の保障」に留まるのではなく、国連が掲げた持続可能な開発目標 (SDGs) の中の目標 17「目標を達成するためのパートナーシップ」に関連する事項を指すものでした。子どもも大人と同様に、社会変革、未来構築の主体としての権利が尊重されるべきであり、そうした主体として行動していくための価値や態度を身につけていくために、幼児教育には今以上に積極的に果たす役割があるということです。

人類全体、地球全体が生き方を再考すべき時期に、OMEP もまた新たな挑戦を始める時にあるのだと、中世の歴史ある建築物に囲まれたプラハの地で、これからの未来のことを思い描きながら過ごしました。

これからのOMEPPの活動

世界OMEPPでは、これまでの資料をデータ化してデジタルアーカイブにまとめました。七十周年記念誌として、History Bookと、各国の子どもの遊びと保育を紹介したPhoto Book、幼児教育用語辞典が作られています。また、各国からの保育実践の提案のための雑誌「Theory into Practice」も発刊しました。いずれもダウンロード可能です。

OMEPP日本委員会では、二〇一九年九月五～七日に京都市で開催する「OMEPPアジア太平洋地域大会」(APR 2019 in KYOTO)の準備中です。歴史や自然文化に共通する点をもつアジア太平洋地域の加盟十一か国(と地域)の会員が、「保育の質」をテーマに集めます。来年二月に大会サイトをオープン^{注4}の予定です。

ぜひ一度、OMEPPのウェブサイトをのぞいてみてください。そして、京都での大会で各国の保育者との交流に加わっていただけるとうれしく思います。

注(参考資料)

- 1 『わが国の幼児教育・保育と国際交流—OMEPP日本委員会40年の軌跡—』OMEPP日本委員会 二〇二二年
- 2 「OMEPPニュース」二〇一八年第二号
- 3 世界OMEPPウェブサイト
<http://www.worldomepp.org/>
- 4 OMEPP日本委員会公式ウェブサイト
<http://www.gakkaiac/omeppn/>

* OMEPP(オメップ)は、フランス語の Organisation Mondiale pour l'Education Précolaire の頭文字を取った呼称。